

秋季学校事務研究会を終えて



こんにちは!県事研研究部です。今回は10月に行われた秋季学校事務研究会についてお伝えします。この研究会では、「共同実施の活性化を目指して」をテーマに、福井県の共同実施の現状と課題を共有し、他県の先進的な実践例などを参考に、これからの共同実施の望ましい在り方を考えました。

前半の全体会では、研究部から福井県の共同実施の現状と課題、そして目指す姿に向けた改善策について提示し、その後、「学校事務を創造する会」のみなさんに新潟市共同学校事務室の取組を御紹介いただきました。後半の分科会では、学校事務を創造する会のみなさんにも御協力いただき、共同実施のマンネリ化や負担感の解消、他職種との連携などに関して、3つの市町(越前市、大野市、小浜市)から提供された話題をもとに意見交換を行いました。それぞれ振り返ってみましょう!

御協力いただいた「学校事務を創造する会」のみなさん(括弧内は協力分科会)

新潟市立東特別支援学校	恩田 裕也さん	(第1分科会)
新潟市立大形小学校	富樫 拓也さん	(第2分科会)
新潟市立小針小学校	渡部 慎さん	(第3分科会)
滋賀県大津市立田上中学校	堀井 直樹さん	(第4分科会)

全体会

前半は、研究部より、「学校運営への参画や学校課題の解決を考える共同実施へ」という目指す姿を提示し、ステップアップを図る取組の一環として、現状の課題解決に向けた「協同研究グループ」の活動について説明しました。今年度は、求められている共同実施の役割を認識し、一步踏み出すことを目標に、現状の確認と改善に向けた研究の方向性などについて県全体で共通理解を図りました。目指す共同実施の姿として「学校運営への参画や学校課題の解決を考える共同実施」を提言し、実現に向けて3つの具体的方策(下記枠内に記載)を提案しました。

後半は「学校事務を創造する会」のみなさんから、「共同実施を活性化させよう! ~新潟市の共同学校事務室~」というテーマで、新潟市の学校事務諸制度や共同学校事務室の具体的取組、そしてこれからの学校事務についてお話をいただきました。

新潟市も福井県と同様に世代交代の進む中で、共同学校事務室の制度を活かし、機能的に業務を進めていることや、若い世代の方々が、型にはまらず新しい発想を取り入れて業務を進めている姿がとても新鮮で印象的でした。研究会に参加すると、こういう驚きがあっという間ですね!

県事研の目指すこれからの共同実施の姿

学校運営への参画 や 学校課題の解決を考える共同実施へ!

そのために

1. マンネリ感・手詰まり感からの脱却
2. これまでの取組の見直し、改善
3. 学校の課題を把握し、解決につなげる取組へ

【お詫び】全体会の音声が各会場に十分にお届けできなかった部分があり、申し訳ございませんでした。

第1分科会 「理想の共同実施」を考えよう

第1分科会では、具体的な取組事例や共同学校事務室の事例を参考にしながら学校運営に資することのできる理想の共同実施について考えました。前半では、「教えて恩田さん!」と題し、協力者の恩田さんに全体会での内容をQ&A形式でより深くお話いただきました。

○共同実施との違いやメリット

- ・少経験者も室長になることもあり、リーダーシップを育むことにつながっている。
- ・諸手当の決裁権限が事務職員に与えられている。そのため手当認定に係る制度を熟知する必要があり、学ぶ自覚が生まれる。
- ・中学校区でコンパクトに集まることで効率的に様々なことが考えられる。

○課題 ・「事務職員のための共同学校事務室」からまだ脱していない。

- ・事務処理をスリム化できる方策が必要



グループワーク

- ①学習環境整備 ②書類点検、手当確認・認定 ③少経験者研修
④管理職との連携 ⑤地教委との連携 ⑥共同実施の体制 ⑦その他

↓ひとつ選んで

理想の姿 → 現状 → 理想に近づくために何ができるか

後半はグループワークを行い、学校運営に資する理想の共同実施について、現状と比較し、理想に近づくために何ができるかという観点で話し合いました。参加者からは「共同学校事務室について直接話が聞けて大変良かった。」「若い方でも(その年の配置によっては)室長としてリーダーシップを経験されているとお聞きして、自分たちも頑

張らないといけないなと思いました。理想の共同実施について、それに近づく方法を話し合ったのも経験年数によって色々な意見があり興味深かったです。」といった感想をいただきました。

第2分科会 共同実施の「倦怠期」をどう乗り越えるか (協同研究グループ 越前市)

第2分科会では、先にお伝えした共同実施の3つの改善策のうちの一つ、「マナー感や手詰まり感からの脱却」ということに焦点を当て、越前市共同実施の現状や課題をもとに解決策を考えました。越前市共同実施では、当初は「業務改善チーム」を発足させ、市教委との連携のもと、就学援助の申請手続きの効率化などの業務改善を行っていましたが、その後はマニュアル整備や初任者研修等、定型的な取組中心となり、業務改善に向けた目立った取組がない状況が続いている、という現状や課題の話題提供がありました。

グループワークでは、話題提供をもとに、「①マナーとを感じる業務とは何か?」「②地教委や他職種と連携して業務改善するには、どのように進めていけばよいか?」をテーマに意見交換を行いました。①については、帳簿点検、マニュアルの更



新・改訂、共同実施通信、文書の読み合わせといった業務にマンネリを感じるなどの意見が挙げられました。②については、「誰とどのように連携すればよいかわからない」「市教委の忙しさを考えると実行に移せない」「事務職員だけで勝手にやっている感があり前に進めない」「市教委と関わるには物理的な距離がある」といった悩みや課題が出ましたが、「市役所で共同実施を行うと担当者に同席してもらったり聞いたりできるのでは」という改善案が出るなど、参加者同士での情報交換の中でそれぞれの共同実施についての悩みや課題解決の糸口を探る様子が見られました。

協力者の富樫さんからは、「学校運営参画とは、日々の学校で起きることすべてを自分事として捉

グループワーク 2つのテーマについて意見交換しよう!

- ① マンネリと感じる業務は何か
- ② 地教委や他職種と連携して業務改善するにはどのように進めていけばよいか

え、取り組めるかどうかである」というお言葉をいただきました。共同実施が充実すれば必ず校務運営参画になるというわけではない、という富樫さんのお話に、参加者からは「共同実施はあくまでも一つの手段にすぎず、各校の事務職員が何を考えどう行動するかが重要であるというのは全くその通りでした。」「富樫さんのお話や、越前市の問題提起は具体的に自分で想像しながら聞くことができ自分事に置き換えて共同実施について考えることができました。」といった感想をいただきました。

第3分科会 学校に頼られる共同実施を目指して (協同研究グループ 大野市)

第3分科会では、事務職員の学校運営参画を進める手段として、共同実施経営の見直しと改善を目指しました。課題の解決策を探るとともに、今後を見据えた評価の在り方を検討しました。

研究部からは、8月に行った情報提供アンケート【Q1.共同実施の負担感や手詰まり感をどんなときに感じる? Q2.学校の困り感の解決につながった取組は? Q3.市町教委や管理職からの理解や支持を得る方法は? Q4.共同実施の評価・振り返りの方法は?】の結果を紹介しました。(詳細や結果に基づいた考察は県事研HPを御覧ください。)



つづいて大野市の協同研究グループから、共同実施経営の見直しを図った取組について、見直しに至った背景や目標・方針、具体的な取組、今後の展望などの報告がありました。共同実施を検討するチームを立ち上げ、全員で話し合い、改善を図った過程について説明されました。

協力者の渡部さんからは、課題を洗い出し改善するという観点から、所属する地域の「評価」についてお話をいただきました。教員による評価も行い、各校の事務業務の現状や課題を把握し、共同実施で解決に向けた支援をすることで、各校の事務機能の整備と強化を図ることにつながっている、とのことでした。

グループワークでは、課題について具体的に実行できる改善策を話し合ってもらうために、同市町、もしくは近隣の市町で編成したグループで、「解決したい負担感や手詰まり感」について、課題や解決策を探る話し合いをしました。参加者からは「同じ支部の方と、(日頃の)仕事の話ではなく共同実施自体について話し合うことができたことが良かった」、「共同

実施のことについてじっくり考え、話し合う時間を持つことが大事だと感じた。点検業務だけでなく、経験年数に関係なく学校運営参画できるよう共同実施で取り組んでいきたいと思った」との感想をいただきました。日々の業務に忙しく、共同実施について話し合う機会を持つことが難しい現状ですが、大野支部のようにメンバー全員で現状の課題を洗い出して考えてみる時間をつくることも、手詰まり感を打開する足掛かりになりそうです。

グループワーク

① ～ ⑤の流れで意見交換しよう!

- ① 解決したい負担感や手詰まり感(問題)
- ② 何が原因なのか?(What)
- ③ なぜ問題なのか?(Why)
- ④ 負担感や手詰まり感のなかから見つけた課題
- ⑤ 解決策

第4分科会 他職種との協働を通じた学校運営の仕組みづくり (協同研究グループ 小浜市)

第4分科会では、「学校課題を把握し解決へつなげる取組へ」ということに焦点を当て、小浜支部の文書受付の話題提供をもとに「より良い文書受付の在り方」を考えることを通して、「学校内での仕組みづくりの方法」や「学校運営に関わるに当たっての共同実施の役割」について考えました。

小浜支部からは、共同実施運営委員会にて文書受付の負担解決が教頭から話題に上ったことを例に、学校内でのより効率的かつ効果的な仕組みの整備にあたってどのように進めていくとよいか、立場によって違う意見をどのようにすり合わせていくとよいか、また、市町全体で運用させるに当たって大切にすべき視点は何か、等の課題が話題提供として投げかけられました。

グループワークでは上記の課題をもとに、RPGゲームのように参加者がミッションを解決していく形式で進められました。協力者の堀井さんから



は、「校内、あるいは市町全体で定着させるためには、その業務の全体像を捉えて、何のためにその業務を行っているのかを踏まえて、ポイントを押さえて広めることが大切である」、「何事もガチガチに決めて制度設計するのではなく、『“ここ”をやってほしい』というところを伝えれば校種や規模の違いにも対応できるのでは」との御助言をいただきました。

参加者からは、「毎日の業務をただこなすだけでなく、何のためにこの業務をしているのか、全体像を捉えることを意識して仕事をしていくことが大切であることを改めて感じました。」との感想をいただきました。また

RPG風のグループワークについては「楽しく活発な意見交換ができた」との感想もいただきました。楽しく参加していただけたようで嬉しい限りです。ありがとうございました。

グループワーク ～事務職員クエスト～

ミッション1「文書受付の負担を10%減らそう」

ミッション2「校内でつくった決まりを定着させよう」

最終ミッション「市町全体で標準化された仕組みをつくろう」

各ミッションを達成する上での障害を書き出し、その解決策を討議しよう!

参加者の声



事後アンケートでいただいた御意見や御感想の一部を紹介します。
(いただいた原文のまま掲載いたします。)

○今後の県事研での共同実施の研究や方向性などに関して

- ・今まで、GLの県連絡会議では他市町の取組の情報交換等は行われていましたが、今回のように、全会員で他市町の共同実施の取組を共有したり、共同実施の在り方を考える機会はとてもよかったですと思います。共同実施の方向性の共有・理解ができました。
- ・市町共同実施と研究部がタイアップして活動頂くことで、福井県全体で足並みを揃えることができ、同じ意見を同じように各市町教育委員会に提案することでより課題解決へ近づくことができると思いました。
- ・今回、各市町から御提案や問題提起をしていただき、多くの方が悩んでいることであり、自分の困り感ともリンクし考えられる全体会や分科会になったと思います。

○全体会での「学校事務を創造する会」の方々のお話について

- ・新潟の方のお話を聞いて、少し共同実施事務室のイメージがつかめてきたように思います。福井で取り入れた時のイメージをもっと深め、メリットデメリットをより議論していきたいなと思いました。
- ・福井県でも市町ごとの共同実施が定着してきた今、これからの学校や学校事務のために今後の共同実施についてをどの市町も考えて進んでいかなければならない段階に来ているということを受けてより強く感じましたので、とても参考になり良かったと思います。

○その他、秋季学校事務研究会全体を通して

- ・他県事務職員や他市町事務職員と交流でき、貴重なお話を聞くことができた。自分の経験では考えつかなかった取組や活動などを知ることができ、視野が広がったように感じた。今後もこのように、様々な事務職員と意見交換できる場があると良いと思う。



まとめ

数年ぶりの参集での秋季学校事務研究会、会場や形式を一新した形で行いましたが、いかがでしたか。自分が参加しなかった分科会以外にも興味深いグループワークがあれば、支部活動などに取り入れてみるのもいいかもしれませんね。今回の研究会で得た情報や新たな視点を共同実施の改善に活かし、課題解決につなげましょう。

共同学校事務室という制度は、まだ馴染みのないものではありません。しかし、他県の状況や先進的な事例を知り、理解を深めることは、共同実施の取組の向上や課題解決の糸口を見つけ、これからの共同実施の在り方を考える上で、大いに参考になると思います。今回の研究会を共同実施について改めて考える機会にさせていただけたら幸いです。